

9月定例会

9月定例会では各会計補正予算案9件、各会計決算認定案3件、条例案2件、報告3件、その他の議案9件の計26件の議案等の審議を行いました。各会計決算認定案3件を閉会中の継続審査としたほか、残る議案についてはいずれも原案可決されました。

本会議では、6名から議案質疑が、また、11名から市政全般に関する一般質問が行われました。

議案質疑

平成21年度 一般会計補正予算(第5回)

丹原・小松地区

市街地整備計画の内容は？

(自民クラブ)

問 丹原地区及び小松地区の市街地整備計画策定業務委託料が、それぞれ300万円計上されているが、事業の場所規模、計画から完了までの期間を問う。

答

本年3月に策定した西条市都市計画マスタープランにおいて、「拠点連結型都市構造」として、西条・東予・丹原・小松の4つの市街地を地域の拠点と位置付け、整備を行うとともに、拠点間を交通網で整備、連携することにより地域の活性化とバランスの取れたまちづくりを目指すものである。

今回、整備を行う丹原・小松地区は地域活力基盤創造交付金を活用し、平成21年度から25年度までの5年間で市街地の幹線道路の整備などを実施する。



▲市道周布今井線



▼市道小松駅前線

丹原地区は、丹原商店街の市道今井周布線の延長1千79メートル、幅員7メートルを歩行者や自転車の安全に配慮したコミュニティ道路、市民が憩える小広場を整備していきたい。

小松地区は、市道駅前線の延長330メートル、幅員7メートルと、市道小松中央線及び小松氷見線の延長1千230メートル、幅員5メートルをコミュニティ道路として整備していきたい。

MH冷凍システムの 実用化の時期は？

(自民クラブ)

問

現在、本市が取り組んでいるMH冷凍システムの技術を活用した「水素いちご栽培実験は、水素を消費しない実用化技術として海外からも注目され、ニッケル水素電池に続いて事業化させる有力な候補として期待されている。水素を使った新産業創出として、このシステムの実用化は、いつごろを想定しているのか。

答

本市では、早くからクリーンエネルギーの活用をはじめとする快適な環境保全の



水素いちご栽培実験

重要性に着目し、新エネルギーを活用した産業振興策を推進してきている。

その中で、MH(水素吸蔵合金)ハイブリッド冷凍システムは、MHの性質を応用し、工場などから出る排熱を温熱源、地下水を冷熱源に利用して冷凍・冷蔵エネルギーを生み出すものである。

今回の補正予算3千606万3千円は、開発施設の整備拡充に要する経費である。MHを活用した冷水・温水大量製造システムの実用化については、総合食料産業技術懇談会及び先端技術活用型高度生産技術研究会の専門家と密接な連携の下、効率的かつ有効な試験・研究の実施及び

コストバランスの検証を行うとともに、システム普及に必要な人材の育成に努め、今後3年間での実用化を目指したい。

大町公民館の備品整備の内容は？

(無党派)

問 大町公民館の建て替えに伴い、備品を購入する経費が計上されているが、どのようなものを購入するのか。

また、近年建設された他地区の公民館と比較してバランスのとれた内容となっているのか。

答

大町公民館の建て替えに伴う備品の整備は、基本的に使用できる既存の備品は引き続き使用することを前提としている。今回、新たに大ホールなどで使用する机・椅子、舞台幕・音響機器、調理室の電化に対応した専用のなべ類、学級・講座などで使用するプロジェクトターなどの購入を予定している。これらの購入は、平成19年度までに建て替えられた他の公民館とバランスが取れたものとなっている。